

所さまの女房衆も御参り候はず候、一十一日には御所さまばかり三ぼうゐんどのへなり候、一十二日には御所さまばかりぶゑいへなり候、一十六日には南の御所へ御ふた所なり候、上様への御ひきいで物御からおり物候也、三がさね参らせ候、一廿二日には御所様ばかり山名殿へなり候、一廿三日には御所様ばかり細川殿へなり候、一廿六日には、まやうれん院殿へなり候、一廿九日には御ふた御所日野殿へなり候、

〔長祿二年以後申次記〕正月二日 一管領へ年始之御成始在之、梳飯御對面以後之間、未刻之過程也、同上様も御成候也、先上様渡御成りて、少御逗留候て、やがて御所様御成候也、兩御所の御供衆、何も裏打也、走衆は小すあふ也、上様は走衆無之、御中間共御輿の先へ二行に参也、今日の御成之儀、御女中衆御座候間、御相伴衆之大名不及伺候候、又猿樂なども無之、此御成之儀も、應仁亂前迄之事也、

〔年中恒例記〕年中御對面 并 雜事少々

正月二日 一管領へ渡御上様も同御成也、一細川殿へ御成始に、於御前進士白鳥を切申候、まないたをば伊勢同苗兩人してかきて参候伊勢同苗も進士も大江ひたまなり、包丁仁の左の方をかきて出る人上手也、宗五説也、五日 一畠山御成被下候也、猿樂在之上様は御成無之、

〔東山殿年中行事 正月〕二日、未刻土岐美濃守成頼獻梳飯御相伴衆、其外出仕面々拜台顔、事過テ兩

御所様渡御于管領亭、兩御供衆裏打走衆素襖但上様ハ暫先ニ御成、走衆ハナキニ依テ、御中間ニ行ニ御輿ノ先ヲ行、女中衆御供ニ

参上故、御相伴衆 并 諸大名不及供奉、無田樂應仁亂後ニハ御成斷絶云々五日、未刻渡御于畠山殿亭、上様ハ無

御成御相伴衆以下伺公、有猿樂觀世大天舞之當職之方江ハ、今月兩度御成アリ、十二日、未刻渡御于武

衛亭、御相伴衆當日御供衆走衆供奉、有猿樂觀世舞之上様者無渡御云々、廿日、未刻渡御于赤松亭、還

御以後、赤松致出仕、爲御成之御禮、獻御太刀 并 萬疋、依之賜御服云々、廿二日、未刻渡御于山名宗

全亭、當日御相伴衆御供衆走衆供奉ス、有猿樂觀世舞之上様無御成云々、廿三日、未刻渡御細川勝元